

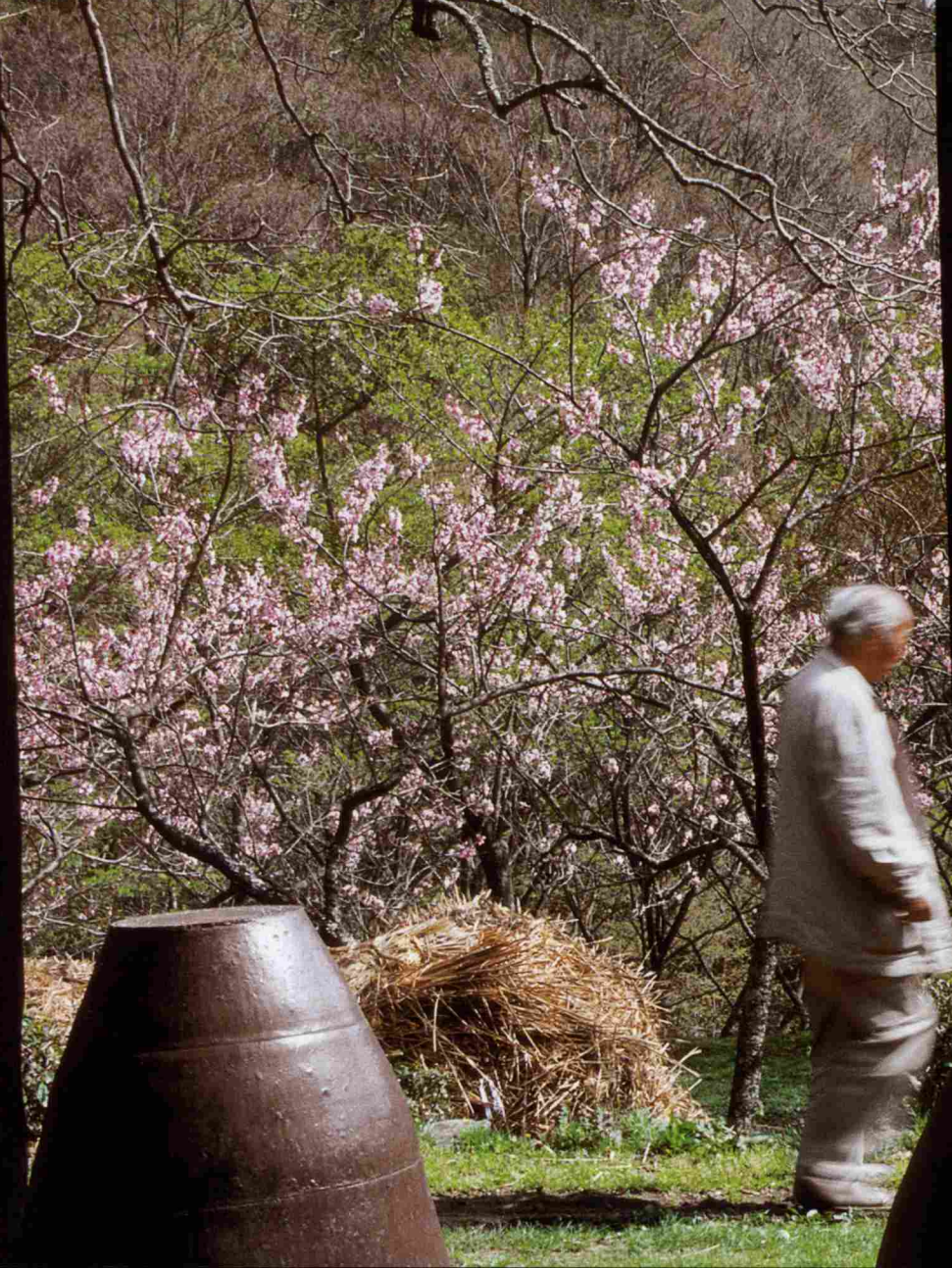
# ANGLE KOBE

A BALMY SPRING DAY

April

Photo Mann Kikuchi









# アコマル ベビー

Animal Baby

vol.1

## インドゾウ赤ちゃん国内初誕生おめでとう!

神戸市立王子動物園 3月2日 午前3時40分出生 メス

母親（ズゼ）のおなかの中に22ヶ月いました。生まれる瞬間は足がひっかかることもなく安産で、間もなく立ち上がりました。現在24時間体制で人工哺育しており一日約7Lのミルクを飲んでいます。おかげで体重は当初の124kgから156kgに増えました。父親（マック）に似て足が長く、遊ぶの

が大好きで飼育員の足を軽く踏んでみたり、体をよせてきたりと、とても元気なおてんば娘です。今後は、子ゾウのための寝室を設ける予定で「このゾウが子供を出産する姿を見守ることができればと思っています。」と飼育員の芦田雅尚さんは言う。

※近々公開予定



表紙／石阪春生

セカンドカバー／米田定蔵

目次／安田祐治「ノートルダム寺院」

4月4日(日)～9日(金) 安田祐治展

ギャラリーオスカーにて

## 4月号目次◆2004—514

- 10 KOBECCO 2004／大塚由貴／センダ・ルクムエナ
- 12 神戸スナップ
- 14 ある集い／神戸ワインクラブ・骨董ワンダーランド開催実行委員会
- 16 ANGLE KOBE／A BALMY SPRING DAY／菊池満
- 18 新連載／アニマルベビー① 王子動物園のインドゾウ
- 20 (特集) 座談会／元町商店街150周年に向けてのメッセージ

- 26 文学散歩／山本周五郎の「須磨寺附近」を歩く  
野元 正・原仁美
- 32 KOBEトピックス／史上最高額の神戸ビーフが登場
- 34 インタビュー／神戸空港旅客ターミナルビル着工に向けて  
森井章二(神戸空港ターミナル㈱ 代表取締役社長)
- 40 ARTインタビュー／松井守男画伯をたずねて
- 44 新連載／木村多恵子の暮しのエスプリ
- 46 神戸のお嬢さん／荒牧英理子さん 榎田摩耶さん
- 48 ボンソワールマダム⑥／黒風樹・黒木ヒロ子さん
- 49 ボンテベルレ2004
- 51 第3回鯉川山手アーバンフェスタ
- 52 エッセレバンビーノ⑦／人も車も皆、ご縁です
- 55 私の意見／林 同春
- 56 ポエム・ド・コウベ／竹中郁・え／小磯良平
- 58 創刊43周年記念復刻版名作シリーズ／淀川長治 他
- 64 林 敏之のヒューマン対談③／河島あみると語る
- 70 神戸っ子祭2004／水こし町子／上月倫子
- 74 名器に出会う／青木重雄
- 76 でん太の教えてドクター⑦／足立 優
- 78 プロフェッサーPの研究室／岡田 淳
- 80 神戸のアーバンデザイン／田中正人
- 81 神戸のモダンリビング／野崎留美
- 86 次代を創る神戸のニューリーダー⑧  
／中内 仁(㈱神戸ポートピアホテル代表取締役総支配人)
- 90 話題のひろば
- 94 有馬歳時記／温泉スタンプラリー「湯とりたび」
- 96 神戸の本棚
- 98 ミセスグリーンを知りませんか?④／谷口良平
- 100 びっといん
- 102 イベントスケジュール
- 104 ポケットジャーナル
- 106 山歩き教室⑥／重廣恒夫
- 108 海・船・港②／上川庄二郎
- 110 北斎ミステリー⑫／中右 瑛
- 112 みだら夜話⑫／浅黄斑・え／犬童 微
- 114 コーヒーカップの耳⑫／出石アカル・え／菅原洗人
- 116 新連載小説「鏡の中のサムライ」④／中野順哉・え／平田郁
- 122 プレゼントメイト
- 123 愛読者サロン
- 126 神戸っ子倶楽部法人会ニュース
- 132 KITANO HOT NEWS
- 134 神戸うまいもん&ドリンキングNEWS
- 135 神戸百店会だより
- 写真／米田定蔵 池田年夫 松原卓也 米田英男



座談会／元町商店街150周年に向けてのメッセージ

# あいされて130年 こうべ元町

明治7年、現在の「元町通」と名づけられた元町商店街。130年にあたる今年、さまざまな企画・イベント・活動が行なわれる。元町130年企画の代表者の皆さんに、熱い思いを語っていただいた。

出席者

三木 久雄  
森 務  
近藤 裕重  
宮崎 みよし

(元町130年企画委員長／丸太や)

(元町130年企画副委員長／もとぶら)

(元町130年事業協賛団体懇談会副座長／マズヤ株式会社)

(アーティスト)

撮影／米田英男

皆さんがつけているのは「こうべ元町130年」バッジ。胸に付けて歩く看板となるのだとか

宮崎 私事務所が6丁目の松尾ビルにあります。元町は芸術の生まれる可能性のある空間があります。「時間」がある街ですね。私は生田中学でしたから、元町のあたりはメッカだったのですが、私はあまり遊びませんでしたね、まじめだったから（笑）。本屋さんに買って本を買いまくらう。それから昔「日の出」さんというレコード屋さんがあ

ります。まず、130周年を迎えた元町商店街への思いを。三木 私が「丸太や」を継いだ30年前は、神戸の中心が元町から東へ移動していった時期で、私たちも危機感を持っていました。ところが、最近お客様に「元町に人が増えてきたね」と、まるで30年前と逆のご指摘を受けています。これは、神戸の中心がまた西へ戻ってきたのではないかと思うのです。我々は、その流れをさらに加速させたい。そのためのひとつの仕掛けをする時期として、この130周年というのはいいい時期ではないかと思っています。

元町130年事業は未来へ向けたチャンス



三木久雄さん

近藤 以前、三越があった場所に、夏にオープンする「バルパローレ」は、さまざまな店舗が入りますが、バルパローレとは人々の集まる憩

って、そこへ行くと視聴ができるんですよ。今はそういうお店が少なくなりましてね。そんな時間の使い方ができる街でしたな。

森 私の店の店名でもある「もとぶら」は、元町をぶらぶらの「元ブラ」からかつて言われていた言葉です。これを店名につけたのは、元町のブランドになりたいという気持ちもありましたし、私の店は100年ほど続く「くしや」という化粧品店ですが、12年ほど前にオリジナル商品の商標登録をとるときに、この名前を選びました。店を改装後、店の名前にも「もとぶら」をつけました。実際この名前をつけてみると「もとぶらって何？」とよく聞かれます。昔「元ブラ」といえば、おしゃれ、ハイカラ、ハイセンスだと言われていました。でも私は、せっかく元町に店があるのだから、それを生かしていきたいという思いでこの名前をつけました。



宮崎みよしさん

いの場という意味です。元町でショッピングをした人たちの憩いの場になるような場所、そんな位置づけのビルにしたいと思っています。——130年事業はどのように入スタートしたのですか。三木 一昨年に、準備委員会が設立されました。各丁の組合員がどう130年を迎えるかと、まず各店にアンケートをとることから始めました。私が個人的に、この130年事業でいちばん大切にしたいと思っているのは、形ではないものの、ハートの部分です。この事業は、我々が元町で商売をしていくことを見直すためのチャンスであり、プラス・マイナス、過去・未来を見直すチャンスであると。ま

ず自分の足元を見直さなければ次に進んでいけないですから。この130年が、集客のある商店街になるための方向転換ができる時期になればいいと思っています。そのためキーワードとして、私は、さきほど宮崎さんが言われた「時間」だと思っています。良い時間が過こせる店、商店街。宮崎さんは、元町には良い時間があつたと言われた。私はそれが元町に期待できる点だと思っていますね。

近藤 元町のブランドを高めたいなら、まずお客様に喜ばなければいけません。物を売るときに、物というのはありふれていますから、付加価値を考える。それは、商売だけでなくサービス、接客などのおもてなしを大切にすること。これは、うちの社員にも言っているのですが、エクスペリエンスマーケティング、体験を売る商売という意味です。私たちは、元町各丁の組合代表としてきています。そういつたことを、元町1〜6丁目の各店がわかちあえるように、意識改革につながるようにままづくりをと考えていま

## アーティストが集う元町

——元町130年のシンボルマークは、宮崎さんがデザインされた。

宮崎 元町100周年のときに、商店街の方々が諏訪山にクスノキを植えたそうです。それを見て感動して、そのままをデザインしました。「継続」という意味を込めて。

——130年事業のひとつに、50年、100年の老舗を表彰するということがあ

るそうです。三木 歴史の長さからいえば、元町は神戸のどこにも負けません。それは、元町で一生懸命ご商売されたお店がたくさんあるからなのです。元町で100年ご商売されているということは、100年お客様に支持されているということですよ。30年、50年続けられているということ、その長さだけお客様に信頼されていると





近藤裕重さん

いうことです。

宮崎 4月3日～5月5日には、元町で「アートウィーク」が開催されます。そのために、元町界隈のギャラリーを掲載したマップを作りました。皆さんにまず知ってもらいたいのは、元町にはたくさんギャラリーがある、ということ。ギャラリーの皆さんが、今まであまり前へ出ていなかったの、神戸のどこにおもしろいギャラリーがあるのかということがわからなかった。ですからこのマップを作ることで、ギャラリーの皆さんに「がんばろう」と思っていたきたいということなんです。オーナーを刺激して、オーナーががんばれば、私たちアーティストもがんばって、お客さんも来るだろうという考えです。そんな「きっかけ」を作ることが、この130年事業のひとつになればと。三木 私たちは、このようなパンフレット制作でも、

イベントでも、すべて手作りでやっているんです。これはミュージックウィークもそうです。手作りであるための、中身の濃さというのがあって、それは元町のひとつのパワーだと思いますね。

宮崎 ゴールデンウィークには、1・3番街の「元町バナークンクール」、6丁目の「あるいてえがくこいのほり」など、各丁で何かイベントをしようと計画しています。一般の方が参加できる、主に子どもたちを対象にしたイベントです。

森 5丁目で毎年開催している「元町児童絵画コンクール展」は16回めになります。先ほど三木さんが「時間」の提供と言われましたが、私は「場所」の提供をしたい。元町の130年事業は、130年で終わりはなく、150年に向けてのスタートだと思っています。ですから、元町ブランドをもう一度やり直さないとい、150年の前になくなってしまう。大切にしたいのは「3S」、スロー、スモール、サステイナブル、つま

りゆっくり、少しずつ、継続的にということですよ。ね。当時、絵を描いていた子どもたちが、今ではお父さんお母さんになっているんです。そしてまた自分の子どもを連れて「お母さん昔、この商店街で絵が飾られたのよ」と思い出を持っているわけなんです。もうひとつ5丁目では、防犯カメラが24台付いています。プライバシーの問題などはありますが、まず安心して歩いてほしいということ。また、130年事業のひとつに入れていただいている「元町発電所」があります。

環境を考え、アーケード上に太陽光発電を備えて利用しています。今、街の中心部というのはどこへ行っても同じに見えますよね。そんなどこでも同じような商店街にはしたくないのです。

## 150周年に向けて 日本一の商店街に



森 務さん

## 「月刊神戸っ子」の ルーツは元町商店街

昭和34年の12月1日。

「こうべ元町」が創刊。昨年他界した兄・小泉康夫が編集長、私二人でスタート。三越の名カメラマン松本泰一氏の表紙写真。対談は「元町あれこれ」と題して、作家の故・白川渥先生と岡部伊都子先生。司会は青木重雄さん。岡部先生が、当時の三越は倉庫みたい、と発言されて物議をかもしました。元町カーニバルやれ、と白川先生。嬉しい！しろと編集で、兵庫の三急印刷へよく通った。20代で恐いもの知らず。

柴田音吉商店や、ヒロタ、神戸風月堂、竹馬産業、フナキヤ、元町バザールなど老舗の広告がいっぱい。

1年続いたときに、神戸大丸の塩路義孝さんが、昭和9年に出版していた「神戸っ子」の名を継いだらどうかとすすめていただき、昭和36年3月から「月刊神戸っ子」を創刊。ハイカラの伝統は今も生きている。

（小泉美喜子）





①宮崎さんがデザインしたシンボルマーク ②「アートな看板」優秀賞作品  
③④3月には障害のある人たちの作品展、作業所や施設で作られた商品を売る「まほろば・すぐれもの工房展」等が開かれた ⑤元町から文化発信をテーマに開かれたシンポジウム

150年に向けて、こ  
ういう街にしたいという願  
いをお話し下さい。

三木 時代は変わっていま  
すので、商店街としては、  
お客様のこれからの新たな  
ニーズ、購買意欲にに応えら  
れる商店街でなくてはいい  
ないと思っています。そう  
いう面では、マイナスなも  
のが、むしろプラスになっ  
ていく可能性があると思っ  
ます。私は、元町商店街が、  
これからの商店街の新しい  
形をつくって、そのモデル  
になるような街になってほ  
しいと思っています。

宮崎 元町商店街は、今、  
過度期だと思います。過度  
期だから「今」を残してい  
かなくてはいけないし、新  
しいものを見つけることも  
必要。「今」を残すのはど  
うするのか、「過去」を残  
すことはどうするのかとい  
うのが、未来へつなぐ課題  
だと思う。そのためには、  
過去の残しかたの、ひとつ  
のコア（核）になるものが  
ほしいなあと思います。こ  
こ行けば、元町の核がわか  
るというようなもの。

三木 それはいいですね。  
「元町ミュージアム」のよ  
うなものです。元町歴史  
博物館、のような。今回「元

町懐古写真展」の開催にあ  
たって集まった写真を見て  
いても、すごいなあという  
ものがありますからね。

宮崎 歴史的なものや貴重  
なものをお持ちなのは各お  
店なんです、今そんなお  
店がなくなっていくてます  
からね。花隈の方も合わせ  
たら、歴史のある場所です。

森 今年1年、130年事  
業を行いますが、それは  
130年だからやった事業  
というわけでなく、これか  
らも継続していけるような  
形を考えています。大きい  
ものではなく、確実に、ゆ  
っくりやっていけるように  
していきたいと思うのです。  
そして商店街というのは、  
あくまで商店の集合体です  
から、各商店がこだわりを  
持つてもらうということが  
大切です。基本的には各店  
が一番を目指して、元町商  
店街は日本一だということ  
を目指していかないといい  
ない。そのためには、みん  
ながこだわりの持つて、競  
争しないといけません。私  
はいつも、5丁目が元町の  
中で一番だと思っています。  
各丁が競って、負けないよ  
うにがんばらないといけな  
いと思います。

シティー・ループでめぐる神戸の街

**料金**

- 1回ご乗車の場合 大人（中学生以上）250円・小人（小学生以下）130円
- 1日乗車券ご購入の場合 大人（中学生以上）650円・小人（小学生以下）330円

1日乗車券は、バスの車内・神戸市総合インフォメーションセンターで販売しています。

**運行**

- 平日／午前9時30分～（中突堤 最終／午後4時18分発）
- 土・日・祝日／午前9時30分～（中突堤 最終／午後5時39分発）
- 12月29日～1月1日の間は運休します。

**【お問い合わせ】**

- バス事業・営業に関することは 神戸交通振興（株）本社 TEL.078-651-8911（土日祝・年末年始を除く 9:00～17:00）
- バスの運行・お忘れ物に関することは 神戸交通振興（株）ポートアイランド営業所 TEL.078-304-2226（年中無休）
- (財)神戸国際観光コンベンション協会 TEL.078-303-1010（土日祝・年末年始を除く 9:00～17:00）



## アートin元町1番街・3番街 元町パナーコンクール

主催 元町1番街商店街振興組合・元町3丁目商店街振興組合

展示期間:4月29日(木)～5月9日(日) 展示場所:元町1番街・3番街アーケード

●テーマ「山・まち・みなと」/ご応募いただいたデザインの中から入選作10点をパナーに製作、元町1番街と元町3番街に展示します。人気投票も行いますので、自由な発想の楽しいパナーの中から、お好みのパナーをさがしてください。

## アートin元町1番街・3番街 元町懐古写真展

主催 元町1番街商店街振興組合・元町3丁目商店街振興組合

展示期間:4月29日(木)～5月5日(水) 展示場所:元町1番街・3番街ストリート

ハイカラ神戸発祥の地、元町。元町130年の時の流れを懐古写真でたどってください。

## アートin元町4丁目 杉山知子 画 タペストリー「元町からの風」

主催 元町4丁目商店街振興組合

●アートバルーン教室/バルーンで可愛いお人形や動物を作ります。

開催場所:こうべまちづくり会館前 開催日時:5月1日(土)2日(日)/13:00、14:30、16:00(一日3回)

参加方法:事前(当日)に整理券を発行 毎回10名様

●パフォーマンス

開催場所:ナガ文具店前 開催日時:5月3日(月)4日(火)5日(日)/13:00、14:30、16:00(一日3回) ※都合により、変更になる場合があります。

出演者:3日(月)ピエロのタケビ/4日(火)ゆあさひろし/5日(水)ピエロのあざろ君

## 元町の芸術家たち展Ⅱ ―こうべ元町からルネッサンスの風―

主催 元町1番街商店街振興組合・元町3丁目商店街振興組合

2004年4月8日(木)～13日(火)/10:00～19:00(最終日16:00まで)

神戸市立こうべまちづくり会館地下ホール

10年前、元町商店街120年を記念して開催されました「元町の芸術家たち展」を130年目の今年、第2回展として開催します。出展仲間も、元町商店街とその周辺地域で活躍されている方々をむかえ、43人に増えました。明治7年(1874年)の誕生より、こうべ元町から世界へ発信している「文化の風」、そしてそれを支えている人々のセンスと情熱をぜひ、ご高覧ください。

出品者●坂上 由可子/小林 美和子/関本 恵一/辻 光行/三宅 操/志賀 正/辻 香寿美/柴田 美和/中林 昌美/吉田 正博/細見 玲子/岡坂 博之/猪飼 寛子/nano/日崎 隆広/平村 圭史/WAKKUN/劉 長庚/田方 彰/白佐 愛子/阿部 恵一/竹内 明子/東 浩哉/松井 コーヘー/松本 やつこ/久本 道子/宮崎 みよし/A.C.P./丸山 吉田 昌代/佐藤 晴彦/バターンセミナー/林 美利/猪飼 貴代/三宅 康夫/山本 隆志/初田 寿/赤坂 通夫/本嶋 達二/福羽 弘子/山田 真規子/土生田 猛/森 文男/小西 豊(順不同、敬称略)

## こうべ元町130年記念事業(上半期)

●こうべ元町130年記念式典 5月20日(木)/エスタシオンデ神戸

元町商店街老舗顕彰 元町の愛唱歌の発表 元町の歴史本「元町・夢街道」の出版

●こうべ元町アートウィーク 4月3日(土)～5月5日(水)/元町と周辺

●こうべ元町130年記念コンサート 5月21日(金)18時から/兵庫県公館「池宮正信とニューヨーク・ラグタイム・オーケストラ」

## アートin元町6丁目 ワークショップ「あるいてえがきこいのぼり」

主催 元町6丁目商店街振興組合・NPO法人リ・フォーブ

開催日時:2004年4月29日(祝)/12:30～15:30 開催場所:元町通6丁目商店街海公園

長い布の上をいろいろな形の靴をはいて歩きながら、もようをつくって大きなこいのぼりを作ります。そして、海公園にあげまこどもわいわい。気軽に遊びに来てね。

## アートin元町5丁目 第16回元町児童絵画コンクール展

主催 元町児童絵画コンクール展委員会・元町5丁目商店街振興組合

展示期間:2004年4月27日(火)～5月5日(祝)/11:00～18:00 展示場所:元町通5丁目商店街全域

「だいすきな…」をテーマにお子さま達の力作約800点を展示 発表いたします。国際学校のお子さま達からもたくさん作品が寄せられました。それぞれの想いがこめられた力作が、いっぱいに並びます。

## こうべ元町130年記念事業

## こうべ元町アートウィーク

KOBE  
MOTO MACHI  
ART  
WEEK

2004年  
4月3日(土)～5月5日(水)

■ こうべ元町ギャラリーウォーク

■ 元町の芸術家たち展Ⅱ

■ アートin元町商店街



## 心癒される 神戸のカフェガーデン

元町をショッピングして、ちょっと休憩なるとき、  
いつでも同じ雰囲気でのんびり珈琲を召しあがっていただきます

元町サントス 神戸市中央区元町通2-3-12 TEL.078-331-1079

# 須磨離宮公園 スプリングフェア2004開催!

緑豊かな広大な敷地と、目の前に広がる青い海。旧離宮と噴水のしびきがきらめく欧風庭園が織りなす憩いのオアシス。水と花と緑のハーモニーを奏でる須磨離宮公園に、ぜひお出かけください。

## 【スプリングフェア2004

4月29日(木・祝)～5月9日(日)】

### ①グリーンアドベンチャー大会

4月29日(木・祝) 10時～  
植物に関するクイズラリー。完走者には参加賞をプレゼント。  
先着500人

### ②春の野点

4月29日(木・祝) 10時～  
一席300円。先着200人

### ③押花アート作品展

5月3日(月・祝)～5日(水・祝) 10時～

### ④フラワーガーデンコンサート

5月4日(火・祝)～5日(水・祝) 13時～

### ⑤子どもの日お楽しみゲーム大会

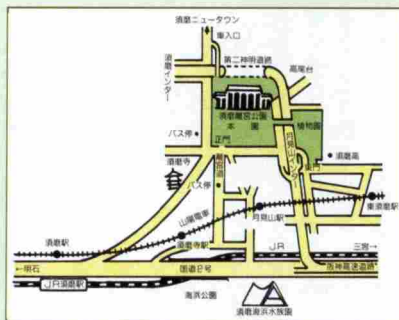
5月5日(水・祝) 10時～



春の野点



子どもの日 お楽しみゲーム大会



【開園時間】午前9時～午後5時(入園は4時30分まで)

4月29日～5月9日の土・日曜、祝日は午後8時(入園は7時30分)まで  
木曜休園(祝日の場合は翌日)

【入園料】15歳以上(中学生を除く) 400円

小・中学生 200円

【交通】山陽電車「月見山」下車、北西へ徒歩10分

山陽電車「須磨寺」下車、北東へ徒歩10分

JR「須磨」より市バス妙法寺駅前行「離宮公園前」下車すぐ

地下鉄「妙法寺」より市バス須磨一の谷行「離宮公園前」下車すぐ

【問い合わせ】須磨離宮公園 ☎(078) 732-6688

<http://www.kobe-park.or.jp/rikyu/>





■野元正(作家)の文学散歩／ゲスト 原仁美さん(関西和装学院 院長)

# 山本周五郎の『須磨寺附近』を歩く

## ○須磨寺夫人

早春の須磨の海はまだ透き通った海水の色に蔽しかった冬を残していた。しかし、浜辺に打ち寄せるさざ波や鉄拐山の茫々とかすんだ稜線にきらめく陽光にはどこことなく春の気配が感ぜられた。

原仁美さんにおつきあいいただいて、山本文学の原点といわれる文壇デビュー作『須磨寺附近』の現地を歩いてみた。この作品は最初の山本周五郎全集に収録されなかった。その理由を「幼きも幼きころだ」と周五郎は『小説現代』（昭和40年3月号）掲載の河盛好藏との対談『作家の素顔』の中で答えているが、繊細な資質ようなものが感ぜられるから、やはりこの作家の原点を示すものとして評価されている。主人公清三が恋するヒロイン青木康子のモデルは友人の姉で九歳年上の木村じゅんである。周五郎は彼女に横浜の少年時代から憧れていた。それは永遠の憧れであり、山本文学の底流を支えるものだと思う。人は彼女を「須磨寺夫人」と呼び、〈ひじょうに優れて美貌であった〉他の作品でも「神戸もの」に限っていえば、『陽気な客』の大村夫人、『豹』の

カメラ／米田英男



純子など「須磨寺夫人」がイメー  
ジされていると思われる。

### ○須磨の浜辺

さて、あらずじを追いながら話  
を進めよう。清三が友人青木の嫂  
康子が住む月見山の家（『名作を  
歩く』神戸新聞文化部編の説によ  
れば、離宮前町にあったという）  
に寄宿した秋の夜、夕食後、三人  
で月光が照る須磨の浜辺に遊ぶ。  
〈浜には波がなく、淡い霧が降り

て寂然としていた、三人の息は月  
の光を含んで白く冰った。青木は、  
月見頃になるとこの浜一面に藻潮  
を焚いて酒の宴を開く習慣がある  
と話した〉

三人が行った須磨の浜辺は康子  
の家（離宮前町）から離宮道をま  
っすぐ下り、現在のJ Rと国道二  
号を渡った赤灯台あたりの海岸で  
はなかったかと思う。

### ○須磨寺と大池



そんなある雨の夕暮れどき、康  
子は清三を須磨寺へ案内する。

〈清三は大きな池のある広場に連  
れて来られた、ここが須磨寺だと  
康子は云った。池の水には白鳥が  
群を作って遊んでいた、雨がその  
上に静かに濺いでいた。池を廻っ  
て、高い石段を登ると寺があった。〉  
〈朱い小さい山門まで来ると、台  
石にふたりは座った。そして「静  
かでしょう」と云い、

〈しばらく眼を閉じてじっとして  
いたが、まもなく帰ろうと云いだ  
した。康子は傘を広げようとしな  
がら云った。

「あなた、生きている目的が分か  
りますか」

「目的ですか」

「生活の目的でなく、生きている  
目的よ」

清三には康子の云う意味がわか  
らなかった。

### ○「須磨寺附近」文学碑

この部分は文学碑となつて、須  
磨寺龍華橋北西橋詰めにある。現  
代彫刻家速水史郎が東北の「どろ  
かぶり」という石を使って制作し  
た。この文学碑の珍しいのは碑の  
裏に周五郎の二つの遺言のうち、  
世の中の人へという遺言が刻まれ





ていることだ。〈貧困と病氣と絶望に沈んでいる人たちのために幸ひと安息の恵まれるように 周五郎〉と。なお、彼は文学碑を嫌っていたので、周五郎研究家で詩人の足立巻一はこの碑の建設に強く反対したと速水史郎はエッセイに書いている。

ところで康子の月見山の家は離宮前町だからふたりは離宮道を横切って須磨寺へ行つたと想像できる。離宮道の小さな土手に植えられた禿仕立ての松が雨に濡れて新鮮に見えたかもしれない。

そして現在の天理教兵庫大教会の南沿いの小径をぬけると、大池の畔にある今の浮き御堂あたりに出る。

同行の原仁美さんの四季の花をあらわした和服姿が離宮道や浮き御堂を映す水面に映えて見えた。

大正13年、須磨寺発行の『須磨寺境内全図』によると、当時大池の畔は新吉野といって、今よりさらに桜の名所であつたらしく、当時の絵はがきもある。また、舞台になった動物園は現在の温泉旅館のあたりにあつた。〈池を廻つて、高い石段を登ると寺があつた〉ここは現在と違う。池を廻ると、仁王門の前へ出る。いきなり高い石段には



到達しない。しかし、当時は池畔から直接石段下へ行けたようだ。またふたりが座つた〈朱い小さな山門〉とはどこなのか。三重塔前の赤門だろうか。台石があり、ゆっくり座れる門は仁王門しかないように思えてならないのだが……。

### ○魔性の女と「我慢なさい」

冷たい寒い日、頭痛で早引きした。しきりに康子が恋しく思われる。やっと帰り着いても青木が留守番をしていて、康子は夫の上役の家に行つていてとかでいなかつた。青木は電報を見せてくれる。

「正月に帰る」と読み取れた。清三はすぐ寝たが、頭痛と電報が気になつて眠れなかつた。

ふと目覚めると、鼻先に康子の顔があつた。〈康子が顔を引くのとほとんど同時に、清三の手が本能的に康子の膝に伸びていった、康子はその手をしっかりと握つた。〉



そして程なく「我慢なさい」と  
思わせぶりを言って階下に下りて  
いった。

また雨の日、清三は康子に新開  
地の松竹座に呼び出される。しか  
し、夫の上役と同席の意味に苦し  
み、また期待してきた恋心を虚し  
く潰した康子のつれない素振りに  
怒って帰る。

この場面も同行の原仁美さんに  
女性心理を尋ねたかったが、怖く  
てやめた。

### ○恋の終焉

四、五日後ふたりっきりの夕食  
のとき、康子は清三に須磨寺前に  
住い下宿先を見つけておいた、と  
いう。込み上げてくる感情に耐え  
られず二階へ上がった清三は追っ  
てきた康子と唇を合わせる。そし  
て「来月の船で亜米利加へ行き  
ます」と康子は言った。「康子の  
熱い呼吸が清三の頬に近づいた。  
「我慢なさい」そう云って康子は  
階下に行った」

朝起きると雨だった。清三は恋  
の終焉を悟った。清三の気持ちを  
映すように「雨の中に須磨寺や鉄  
拐山の峰が寒くかすんでいた」

「生きている目的が分かるか」清  
三は朱い山門の下で云った康子の  
言葉を思い出していた

### ○永遠のテーマ

この小説のテーマは「生きてい  
る目的が分かるか」だと思ふ。例  
の足立巻一は「周五郎が生涯を追  
求した（永遠の）主題」だ、と言  
っている。

### ○雨の物語

この小説における作者の心象風  
景として雨のイメージが浮かび上  
がってくる。作者の気持ちに反映  
するかのうちにこの作品の重要部  
分はいつも雨が降っている。例を  
上げると、康子が清三を須磨寺へ  
案内するときや激しい頭痛のなか  
康子の夫から届いた「正月に帰る」  
の電報を見たとき、康子から松竹  
座に呼び出されたときや最後の恋

の終焉を悟った朝も清三の言いし  
れぬ哀しみを含んだ心象風景と重  
なる雨だった。

### ○網敷天満宮の梅

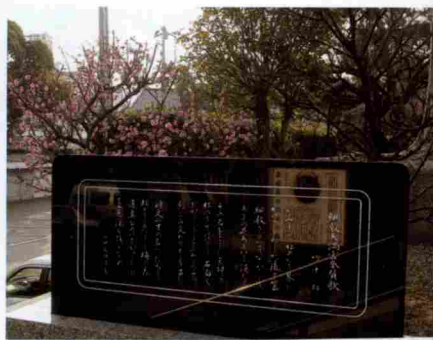
康子の家から須磨の浜辺に至る  
途中に菅原道真ゆかりの梅で有名  
な須磨の天神さんがある。神戸の  
詩人で須磨在住であった竹中郁が  
詠った『網敷天満宮奉賛歌』の詩  
碑もある。

### ○須磨寺前商店街

須磨寺の門前町として栄えた須  
磨寺商店街は今も毎月二十一日、  
お大師の月例御影供や花見の季節  
には人びとで賑わう。いわれのあ  
る寿司、そば、菓子が美味しい。

### ○文学散歩のんびりコース

(所用時間2時間30分から3時間)  
JR須磨駅→須磨の浜辺→須磨閑  
屋跡→須磨温泉→須磨寺中門→  
龍華橋詰『須磨寺附近』文学碑  
→仁王門→源平の庭→石段→唐  
門→本堂→赤門→四国八十八カ  
所巡り→三重塔→敦盛首塚→大  
池池畔→浮き御堂→天理教兵庫  
大教会南小径→離宮道（月見山・  
離宮前町界隈）→離宮公園→離  
宮道→網敷天満宮→西国街道→  
JR須磨駅





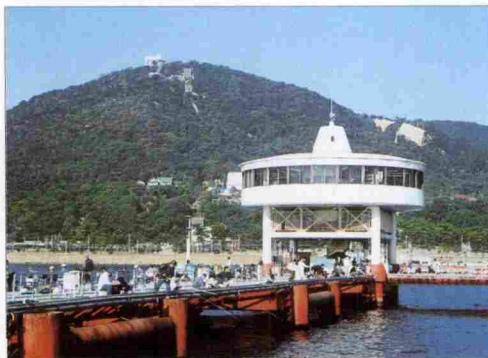
# 神戸市立 須磨・平磯海づり公園



山口敏雄さん 垂水区在住

須磨海づり公園に通うこと28年。ここは海底が深くどんな魚が釣れるかわからないおもしろさがあるのが魅力です。東、西の潮流の境目なので身の締った美味しい魚が釣れます。今のシーズンは、メバル、アブラメ、ガシラ、スズキなどがよく釣れます。これからも海づり公園の釣り仲間とともに、釣りがさらに上達できれば、初めて来られた人達にここの楽しさを伝えることができればと思っています。

**家族そろって、レッツフィッシング!! 快適フィッシングスペースを満喫!!**



神戸市立須磨海づり公園

神戸市須磨区一ノ谷5丁目地先

TEL.078-735-2907

阪神・山陽電鉄「須磨浦公園」下車すぐ  
休園日／毎週火曜日（但し、祝日は開園）



神戸市立平磯海づり公園

神戸市垂水区平磯1丁目1番66号

TEL.078-753-3973

阪神・山陽電鉄「東垂水」下車南へ徒歩約8分  
休園日／毎週木曜日（但し、祝日は開園）



レストラン（平磯）



バーベキュー広場（平磯）

売店・軽食堂完備  
エサ・釣具・軽飲食・貸竿

テレフォンサービス 078-732-4926  
<http://www.umiduri.com/>

開園時間（共通）

期 間	時 間
4月～6月・11月	6:00～18:00
7月～10月	6:00～19:00
12月～3月	7:00～17:00

売店・レストラン・軽食堂完備  
エサ・釣具・軽飲食・貸竿

本州四国連絡道路の  
安全・円滑な交通と  
地域の発展をめざします



幸前 成隆 (財)本州四国連絡道路管理協会 理事長

世界一のつり橋が眺望できる  
すばらしいビュースポットの  
淡路サービスエリアへ



淡路サービスエリア

財団法人本州四国連絡道路管理協会  
神戸市中央区雲井通4-1-2 三宮東ビル4F  
TEL 078-242-3833

## 特別展「ゴリラ特集」

4月15日(木)～6月29日(火)開催

ゴウコウ(オス)



パンダが  
待っている動物園

ナンタン(メス)



交通  
至便

神戸市立王子動物園

☎078-861-5624

<http://www.ojizoo.jp> 水曜日休園

●動物園へは電車・バスをご利用ください。